

「生き方を考える教育の実践」～自律し自立する生徒の育成～

アドバイザー：日本体育大学 角屋 重樹 教授

1 はじめに

本校は、学校教育目標「夢の実現へ向け見通しを持って今を充実して生きる生徒の育成」のもと、「自分で考え、自分で判断し、自分が行動する」生徒の育成を目指している。平成27年度は、スーパーバイザー事業として教科や道徳を中心にした取り組みを行い、成果をあげることができた。

今年度は、「主発問を通した生徒に考えさせる授業作り」を行い「授業の中に課題の解決に向けて生徒同士が主体的に関わり合いながら『協働する』場面を設定する」ことで、「生徒の問題解決能力を高め、学校教育目標の実現にせまることができる」という研究仮説のもと、教科の授業力向上を目的として、各教科における授業づくりを中心に研究を行った。

2 研究のねらい

- (1) 授業づくりのポイントを意識した実践を行うことで、本校の目指す生徒像を実現する。
- (2) 各教科で共通の研究の柱とすることで、全教職員の授業力の向上を図る。

3 研究内容

(1) 研究の概要

- 6月27日 道徳授業研究会
- 7月6日 第1回授業研究会（保健体育） adv 日本体育大学 角屋重樹 教授
- 7月29日 校内研究会（道徳）
- 8月24日 校内研究会（PDCAチェック、道徳、教科、Q-U分析）
- 10月13日 エキスパート教員授業公開（技術：道脇教諭）
- 11月30日 第2回授業研究会（国語） adv 日本体育大学 角屋重樹 教授
- 12月8日 エキスパート教員授業公開（社会：大島教諭）
- 12月19日 初任研授業研究会（保健体育）

(2) 取り組みの具体的な内容

①取り組みの計画と共通理解

- ・研究授業及び公開授業は、初任研、フォローアップ、10経年などの授業研究会と兼ねる。
- ・研究会以外の参観日又は教委訪問など、研究の成果を還元する機会を全員が持つ。
- ・教科の研究会には、担当教科外の教員も参加する。

○研究授業のテーマ

「学びの必然性を感じられる授業づくり」

～生徒同士の主体的な関わり合いの活動を通して～

○授業づくりのポイント

- ・主発問は、思考を深め本時のねらいにせまるものになっていたか。
- ・課題の解決に向けて、生徒が協働する場面を設定しているか。
- ・本時のめあて、振り返りを設定した授業展開となっているか。

②第1回授業研究会（1年保健体育）7月6日体育館（指導案 資料1）

○単元名 器械運動（マット運動）



○アドバイザーからの指導助言

教科の本質とは

- ・各教科には「教科の本質」と「教科の本質をもとにした人間性の育成」の2つの獲得すべき、目指すべきものがある。
- ・保健体育の教科の本質とは、体を使った能力の向上である。
「まずはやってみる」次に「自分を見つめる」、その結果として「体の動きを改良する（美しくする）」自己改良のためには、見通しと振り返りが必要である。自己を絶えず振り返り、改良しながら取り組むことである。
- ・体を使った能力の向上であり、他の教科でもできる汎用的能力にすることが大切である。

思考するために

- ・比較、関連付けが必要である。今日の授業の中での工夫は、随所で「比較する」ことである。
比較は、技を見せ合い、人とのかかわりあう中から出して欲しい。そこで、自分の動きの中で自分に足りないものを発見することである。言いかえると・・・
- ・自分の考え方と人の考え方との違いを比べ他者の中から自分にはないものを見つけ出すことである。
- ・教科の中で他者を認め、自分にはないものを他者から吸収することである。

振り返りに必要な視点

- ・自己の変容。自分がどれだけ変わったのか自己の変容に気づかせる。
- ・変容のきっかけになったものは何か。他者の介在がどうであったか。
自分は変わることのできる存在である。
- ・よりよい自分に変容させるきっかけは他者を介在させる。「～さんのおかげ」のような言葉が振り返りにでるとよい。

これからの時代に必要な資質・能力（3観点について）

〈知識・技能〉

教えるのではなく、みんなでまとめ上げる。

自分たちが授業をつくっているという錯覚を引き出すように。

〈思考・判断・表現〉

保健体育・・・体で表現

音楽・・・音で表現

美術・・・描いてみる

※話し合い活動ばかりではない。

〈よりよく生きる〉 人間的に豊かになる。
存在を認める中で、人間性を豊かにする。
どう生きていくか考えることで、心が豊かになる。
改良で、さらなる自分に代わっていく。
「飽くなき 変容の姿」

学習の必然性があるような授業を検討していく

- ・「自分の知識が広がることの喜び」を感じさせたい。
- ・絶えず自分を変容し続けるような授業である。
- ・それは一人ひとりの成長を保障する授業になる。

○参加者の感想

- ・振り返りについての視点で、自己の変容や自己の変容のきっかけの2つを意識しておくことが大切。変容のきっかけがどこにあるのか。他者が自分に影響を与えていることを認識できる振り返りを考えていきたい。
- ・振り返りの視点として、授業中の自分自身の変容と他者の発言から気づいたことの2つの視点を持つことが大切だということが印象に残った。英語の授業でも、1時間の中で自分自身の変容を感じたり、他者と比較することで、人から学ぶことができるような授業構成を心掛けていきたいと感じた。

③第2回授業研究会（1年国語）11月30日 会議室（指導案 資料②）

○題材名 ポスターセッションで伝える『竹取物語』の魅力〜かぐや姫に求婚した6人の男性〜



ポスターの構成要素とは

- ・伝える内容、伝えたい内容を簡潔にキーワードで見出しをつけ、さらにそう思った根拠を加える。
- ・出典の意味 誰かが追試できるように。再現性があるように。内容の信頼性の確保のためもある。
「著書名」「標題」「出版社」「執筆者」「ページ」「発行年」等
- ・ポスターの内容を考える必要がある。自由に書くのではなく形式を与えて書かせたほうがよい。
- ・ポスターセッションとは、学会の発表などでも使われている発表手段で、国語の能力の育成のみならず、汎用的能力の育成が可能である。

よい話し手で必要な条件

- ・論理的な説明をする。テーマを分析する。
- ・分かりやすく説明する。・指で示す。・大きな声で、ゆっくりと。
- ・相手に伝わるように話す。相手意識を持つ。
- ・相手の反応を見る。聞き手との関係を上手に作る。
- ・目的意識の共有。相手が求めていると。相手との関係で、分かりやすく説明しても相手が聞いてくれなくてはだめ。

よい話し手で必要な条件

- ・うなづく・静かに聴く。
- ・質問する。この場合は自分の基準があって、その情報が得られないときに聞く。
- ・質問する。対比させる。自分の基準を持って聞き、僕だったらこうするというものをもって聞く。
- ・クリティカルシンキング（批判的に聞く）をしながら聞く。
- ・よい質問とはポスターのタイトルとその根拠との矛盾に対する質問。

○参加者の感想

- ・良い話し手、良い聞き手になるにはどのようにすればよいのかを考えることができた。相手に伝わるようにというだけではなく、話し手と聞き手の関係性であったり、対比しながら情報のやり取りをするというようなことを、自分の教科でどのようにすることができるかを考えることができた。
- ・形だけ生徒にさせるというのではなく、教師側が何を学んで欲しいのか、どんな変容を望むのかということをしっかり持って授業にのぞむことが大切だと思った。

4 研究のまとめ

(1) 成果

- ・授業研究会をきっかけとして授業のねらいやめあて、主発問、振り返りについて改めて考えることにより、教職員の授業力が向上した。校内授業評価アンケートの結果、各教科とも肯定的評価をした生徒の割合が増加した。
- ・アドバイザーの指導助言により、各教科における授業の本質や授業づくり、学びの必然性、協働についての理解が深まった。
- ・授業アンケート（全校生徒対象6月、12月実施）「授業には、自分の考えを伝えたり、説明したりする場面があるか」の問に対して平成27年度と平成28年度で肯定的な評価の割合を比較したところ、大幅な改善が見られた。72.0%→84.8% (+12.8%)
- ・湖東中校区共通アンケート（全校生徒対象 11月実施）における、自律し自立する姿勢に関連した項目を、平成27年度と平成28年度で肯定的な評価の割合を比較したところ、
「将来の夢や目標を持っている」73.7%→74.0% (+0.3%)
「授業中、めあて（目標）をもって学習している」81.5%→87.0% (+5.5%)
「人に流されることなく正しい事を自分で判断し、行動している」84.8%→85.9% (+1.1%)
となっており、この取り組みにより、生徒の自律し自立する姿勢が高まってきていることが窺えるが、昨年と比べるとその伸びは鈍化しているため、全教科でさらなる改善が必要である。

(2) 課題

- ・主発問を通して、「学ぶ必然性のある」授業展開になるような授業づくりを全教科でさらに目指していく必要がある。
- ・授業の中で、自分の考え方と人の考え方との違いを比べるなどして、他者の中から自分にはないものを見つけ出す授業をどの教科で確実に継続して積み上げていきたい。その場面を設定をする仕組みを作っていきたい。
- ・「振り返り」については自己の成長や変容について言語化でき、他者が変容のきっかけとなるような記述が見られるように確実に実施していきたい。また、「振り返り」によって次の学ぶ意欲につながり自律し行動していけるよう高めていくことが課題である。
- ・国語科の「聞く・話す」学習をベースにして、話し合い活動の基本的なルール作りを行いたい。学校としての基本的なルールを作り、あらゆる場面で活用したい。